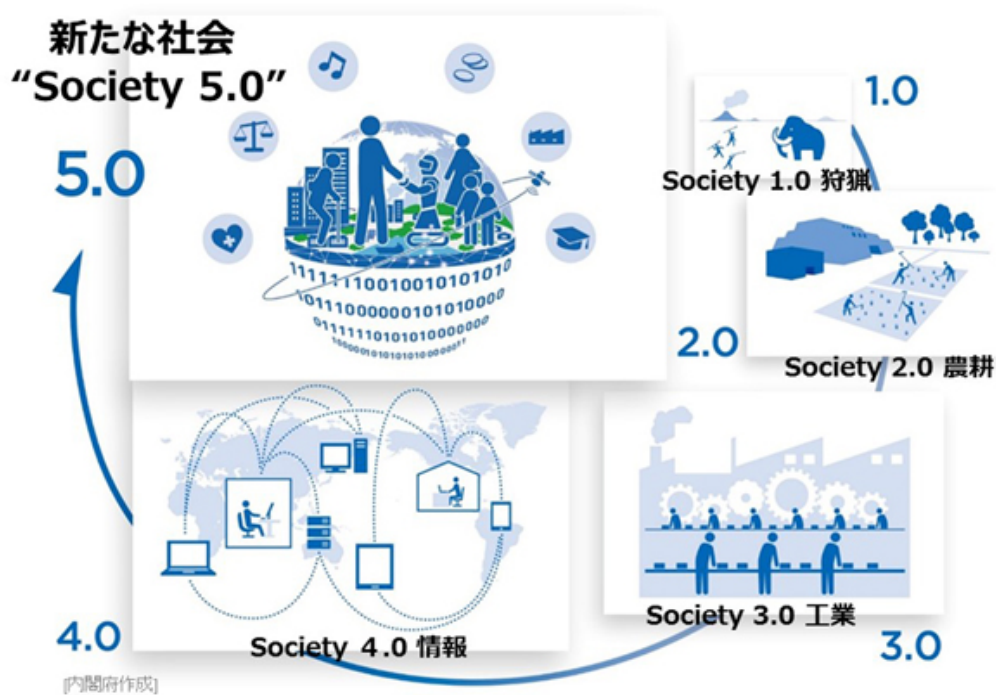


Teaching Portfolio 2020



第26回 佐賀大学 ティーチング・ポートフォリオ・ワークショップ
2021年3月8日(月)～10日(水)

佐賀大学 所属 経済学部
氏名 羽石 寛志
hhiro@cc.saga-u.ac.jp

内容

1. 教育の責任	2
1.1. 科目1 専門科目「社会情報論」「経営情報論」	2
1.2. 科目2 演習科目「基礎演習」「演習3年」「演習4年」	3
2. 教育の理念	3
2.1. 立場の違う者とのコミュニケーション能力	4
2.2. 社会で活躍できる基礎能力	4
3. 教育の方法	4
3.1. 立場の違う者とのコミュニケーション能力についての教育	5
3.2. 社会で活躍できる基礎能力についての教育	6
4. 教育の成果・評価	6
4.1. 立場の違う者とのコミュニケーション能力に対する評価	6
4.2. 社会で活躍できる基礎能力に対する評価	7
5. 今後の目標	8
5.1. 短期目標	8
5.2. 長期目標	9
6. 添付資料・参考資料	9

1. 教育の責任

私は佐賀大学で経済学部経営学科の教員として、学部の専門科目は「社会情報論」、「経営情報論」、「演習」を主に担当しており、その他に教養教育科目及び大学院の専門科目を担当している。過去3年間に担当した授業科目は表1のとおりである。【添付資料(1)参照】

表1 担当学部科目

科目名	学年	種別	受講者数	開講年度
社会情報論	1年	選択必修	150名前後	2013-2020
経営情報論	3年	選択	100名前後	2015-2020
基礎演習	2年	必修	10名前後	2006-2020
演習(3年)	3年	必修	10名前後	2005-2020
演習(4年)	4年	必修	10名前後	2006-2020
情報基礎概論	1年	必修	100名前後	2013-2019
情報処理入門	1年	選択必修	100名前後	2018-2020
キャリアデザイン	1年	選択	300名前後	2018-2020

なお、大学・学部・学科の教育目標は下記のとおりである。

【佐賀大学の目的】

佐賀大学は、教育基本法（平成18年法律第120号）第7条の規定の趣旨にのっとり、国際的視野を有し、豊かな教養と深い専門知識を生かして社会で自立できる個人を育成するとともに、高度の学術的研究を行い、さらに、地域の知的拠点として、地域及び諸外国との文化、健康、社会、科学技術に関する連携交流を通して学術的、文化的貢献を果たすことにより、地域社会及び国際社会の発展に寄与する。（出典：経済学部マニュアル(2020)p.1）

【経済学部の目的】

本学部は、経済学・経営学・法律学を柱として社会科学上の知識と教養を授け、経済社会における問題を分析し解決できる人材を育成することを目的とする。（出典：経済学部マニュアル(2020)p.1）

【経営学科の目的】

企業の経営・会計を学び、企業経営について幅広い視野と専門的知識を持つ人材を育成すること。（出典：経済学部マニュアル(2020)p.1）【添付資料(2)参照】

担当講義において、「社会情報論」「経営情報論」は専門知識を習得させること、「演習」は各学年での課題解決グループワーク及び卒業論文の執筆を行わせることであることから、その3科目が私の考える教育理念の中心科目である。3科目の講義概要は以下のとおりである。

1.1. 科目1 専門科目「社会情報論」「経営情報論」

社会情報論は、社会情報論の基礎を理解し、社会経済の中での情報通信技術の

利用を学び、今後の社会変化の中での情報通信技術やそこでの情報の重要性を題材に受講生が自ら考える講義としている。

経営情報論は、経営情報論の基礎を理解し、企業での情報通信技術の利用を学び、進展する情報通信技術や環境によるその利用の変化を題材に受講生が自ら考える講義としている。

1.2. 科目2 演習科目「基礎演習」「演習3年」「演習4年」

各演習では、一般の講義科目と違い学生が自主的に研究課題を見つけ研究していく場として設定している。

2. 教育の理念

教育の責任から、佐賀大学・経済学部・経営学科での教育により、大学生としてまた社会科学や教養及び経営学科の専門知識を持つ人材の育成を前提として、私の教育理念は、「たくましい社会人の育成」としている。

このことは、今後、AIをはじめとする情報通信技術の発展などにおける社会の変化に対応すべく、社会科学を学び研究する学生が講義や書籍などからの知識のみの習得だけでは、その変化の対応が不可能になるとの危機感からである。その激動する社会変化に柔軟に対応する人材を「たくましい社会人」としている。

たくましい社会人の育成のために、私は学部教育として専門科目と演習科目にてその実践を行っている。そこでは、学ぶ場としてだけでなく、「自身で深く考える」、「体験する」場として設定している。

この場の設定には自身の経験からきている。幼少時代より大学教員であった父の研究室学生が自宅に頻繁に来て寝食を共にして研究を行っていた。また、学生時代に大教室の講義にはあまり参加せず、体育会クラブの学連設立や大会の運営を行い、様々な立場の人との活動を通じ自身の成長を感じた。さらに、学部の指導教員のゼミ運営は、自由な中に他者との関係を重要視する指導であったことが影響していると考えている。そのような環境の中、対面での様々な共体験を行い、関係者の人柄などを互いに認識したうえでないと、学ぶことも教えることも困難であるのではないかということ学んだ。よって、学部教育では知識の伝達だけではなく、その科目ごとの課題や教材を共有し皆で考えることを中心として、さらに共体験が可能な環境の設定を重視している。

特にそのことを学生に示すため研究室の理念を定め、所属学生に「情報通信技術を活用し、効率的に学生生活を謳歌し何事（勉強・研究・就職・趣味・クラブ・サークル・アルバイト・恋愛・遊び・etc.）にも真剣に全力で当たり、何か（自分・他人・etc.）を Happy にすることに努めます。」と Web ページに公開

している。そこでは特に下記の項目が重要であると考えている。【添付資料(3)参照】

- 明るく元気で素直な人間であろう
- 積極的に行動しよう
- 責任ある行動をとろう
- よく考え想像しよう
- コミュニケーションを積極的にしよう
- 情報受信共有発信しよう
- 何事にも興味を持とう
- 全力を出しきろう
- ホスピタリティを身につけよう

これをまとめ、①「**立場の違う者とのコミュニケーション能力**」、②「**社会で活躍できる基礎能力**」としている。

2.1. 立場の違う者とのコミュニケーション能力

情報化社会でのコミュニケーションの重要性は高まってきている。自身だけでの情報収集では必要な情報を得ることは困難であり、自ら積極的に情報発信を行わないと、自身に必要で正確な情報の収集は困難である。また、学生の立場で講義を受講していれば様々な情報を得ることができた環境から、自ら情報収集が必要になる社会環境への変化に対応するためにも、**立場の異なる者とのコミュニケーションの必要性が高まっている**。

そのコミュニケーション能力の向上において、上記の「明るく元気で素直な人間」、「積極的な行動」、「コミュニケーションの積極性」、「何事にも興味を持つ」、「ホスピタリティ」を持つ人材育成が目的である。

2.2. 社会で活躍できる基礎能力

社会で活躍できる人材として、その基礎的能力において「**ホスピタリティ**」を身に付ける必要があると考えている。ホスピタリティを備えることは、相手の立場に立つ必要があり、そのことは物事を多視点・多面的に理解することが可能となる。経験値や知識の乏しい学生が社会に出て活躍することにはこのホスピタリティの観点が重要になるとの思いからである。

そこで特に演習科目において「責任ある行動」、「よく考え想像する」、「情報受信共有発信」、「全力を出す」ことが実行可能な人材育成が目的である。

3. 教育の方法

理念・目的の「たくましい社会人を育てる」を実現するために、学部教育にお

いて以下の通り教育を行っている。

なお、教育の理念実現のための基礎能力として、講義は基本的に**自身で考える**ことを実現するためにその材料の提供を行う場であると考えている。専門科目である「社会情報論」「経営情報論」では、社会が変化し働き方や暮らし方も大きく変わる中、社会科学を経済学部及び経営学科で学ぶ上での現代社会における情報や情報通信技術の利活用の重要性を認識させ、その学びを深めていくための場として設定している。

また、自身で考えることを習慣化するために、毎講義終了時にミニレポートにて「講義で理解したこと」「講義で理解できなかったこと」「講義から自身で考えたこと」を課し講義で扱った内容を自分のこととし考えまとめる機会を設けている。

3.1. 立場の違う者とのコミュニケーション能力についての教育

立場の違う者とのコミュニケーション能力を身につけさせるため、演習において特に「明るく元気で素直な人間」、「積極的な行動」、「コミュニケーションの積極性」、「何事にも興味を持つ」、「ホスピタリティ」を重視して教育を行っている。演習所属説明会では、各項目を明示し理解の上応募するようにしている。新ゼミ生の選考時は、所属ゼミ生全員で多面的に一緒に学びたい人物の面接を実施し、また所属した最初の時間にはその意味の説明を行っている。**【添付資料(4)参照】**

演習では、実社会の課題解決を企業などとグループにて取り組む中で、コミュニケーションが必要な小さな社会環境を作り、他者とのやり取りを経験させるようにしている。その環境において、立ち振る舞いやコミュニケーションの重要性を理解させている。演習における企業などとの活動を表 2 に示す。

表 2 企業などとのゼミ活動一覧 (2018-2020 年度)

2020 年	2-3 年生	富士通	就活アプリ開発
2020 年	4 年生	佐賀県情報課	情報セキュリティ調査研究
2019 年	2-3 年生	九州電力・サガテレビ	イベント企画
2019 年	4 年生	佐賀県高度情報化推進協議会	高齢者のキャッシュレス決済
2018 年	3 年生	NTT タウンページ	佐賀県版タウンページの作成
2018 年	4 年生	佐賀県高度情報化推進協議会 ・LINE	LINE Pay 大学祭導入実験

また、研究室は常時開放しており、同級生だけではなく教員や他学年とのコミュニケーションが可能な環境を準備している。特に 3 年生の演習科目では、研究室所属学生 2 年生から 4 年生全体の幹事として活動させることで、物事を多視点・多面的な状況把握が必要であることを理解させ、そのことにより他者目線の必要性を理解しホスピタリティの習得を可能としている。

3.2. 社会で活躍できる基礎能力についての教育

社会で活躍できる基礎能力を身に付けさせるため、演習において特に「責任ある行動」、「よく考え想像する」、「情報受信共有発信」、「全力を出す」を重視して教育を行っている。

2年半の演習において、それぞれの立場で研究室での活動（表 2 表 3）において、様々な共体験を経験する。

表 3 ゼミ活動スケジュール

4-5月GW	卒業生合同BBQ
6-7月	新ゼミ生勧誘選考
9月	2泊3日ゼミ合宿
11月	卒業生合同BBQ
2月	卒業論文発表会・1泊2日送別会

その経験から教育の理念の重要性を再認識させ、組織の中での自身の行動や他者との関係性の構築を理解し会得できるようにしている。その経験のまとめとして卒業研究のテーマ選定及び作成を行う。卒業研究では社会での課題を我が事と理解し取り組みデータ収集分析を行うことを推奨しており、社会科学を学んだ者としての基礎能力の習得を可能としている。また、卒業生と現役学生が参加している SNS グループに現役学生は週一度近況などの報告を行うことを義務化しており、その情報発信を行うことで重要性を実感させるようにしている。

4. 教育の成果・評価

理念である「たくましい社会人の育成」のため、①「立場の違う者とのコミュニケーション能力」、②「社会で活躍できる基礎能力」を持たすことがその成果となる。また、理念に関する直接的な輩出人材としては、研究室の卒業生であるが、これまで2005年度から2019年度までに研究室の卒業生を132名輩出している。そのうち、120名とは現在も連絡が可能となっており、その多くの学生と SNS などで近況などのやり取りをしている状況である。また、私と研究室の現役学生と卒業生との年2度のイベント（各回約50名程度の参加）などにおいて対面での交流（2020年度はコロナ禍のため中止）を行っており、卒業後の状況確認の機会となっている。【添付資料(5)参照】

4.1. 立場の違う者とのコミュニケーション能力に対する評価

コミュニケーション能力の成果の一つとして、卒業生の進路先が考えられる。近3年の卒業生の進路先を表4に示す。

表 4 卒業生の進路先一覧 (2018-2020 年度卒業生)

ANA 福岡空港 2名	ライドオン・エクスプレス
JR 九州	一建設
JTB 九州	応研
NEC フィールディング	楽天銀行
NTT ドコモ	熊本県庁
NTT 西日本	玄南荘
YKKAP	佐賀銀行
カチタス	佐賀県教育委員会
カルチュア・コンビニエンス・クラブ	佐賀県警察事務
コカ・コーラボトラーズジャパン	三井住友海上火災保険
サガシキ	日立ソリューションズ・クリエイト
ドコモ CS	富士通
トヨタ部品福岡共販	福岡銀行
ノギ (コワーキングスペース・シェアハウス起業)	福岡商工会議所連合会

各年度約 10 名の学生が卒業するが、ほぼすべての学生が第 1 志望群の進路先に決定している。また、卒後 3 年間の離職率はほぼ 0% である。このことから、就職活動やその後の社会人としてのコミュニケーション能力はおおむね良好であると考えられる。

各年度の各学年において様々な外部組織との共同研究やイベント企画 (表 2) などを実施している。そこでの活動において社会でのコミュニケーションの必要性を実感し継続的活動により能力の向上が図られている。

また、研究室には毎週卒業生や企業の方の来訪者があり、コロナ禍前には懇親会なども頻繁に開催されていた。そのような機会に参加することにおいても多くのコミュニケーションを行いその能力向上が図られていると考えられる。

さらに、特に 3 年生は、演習科目での研究室イベントなどの幹事としての活動によってホスピタリティの習得を可能としている。例年イベント参加者の評価は高くその流れが伝統として残っている。

4.2. 社会で活躍できる基礎能力に対する評価

情報化社会の進展の中で情報通信技術の利活用及び情報収集共有発信の重要性の理解のため、専門科目にて教育を行っている。その教育での授業評価は表 5 のとおりである。なお、ライブキャンパスの更新中ということもあり、2020 年の専門科目である前期開講の経営情報論のみの結果を示す。

表 5 授業評価アンケート結果

	2020 経営情報論 28/95		
	科目平均	学部平均	全体平均
出席率	5.000	4.855	4.895
授業外学習	2.679	2.870	3.364
シラバスの利用	3.320	2.836	2.938
学習到達目標などの把握	4.107	3.838	3.767
教育理念などの説明は有意	4.321	4.137	3.965
教員の質問対応	4.286	4.207	4.064
教員の意欲熱意	4.536	4.291	4.167
学習到達目標の達成	3.929	3.861	3.778
シラバスに基づいていたか	4.250	4.016	3.920
ICT 環境での授業の理解	4.429	4.153	4.034
学生の主体的学び	4.214	3.657	3.489
満足度	4.571	4.204	4.068

ほぼ全ての項目において全体平均学部平均より良い結果（網掛け部分）となっている。特に本講義のシラバスを理解したうえで学び満足度を得ていることから、物事を深く考えることなどが到達できていることがうかがえる。また、ICT 環境での授業の理解も高い結果ということから、情報社会での ICT の利活用という点でもよい結果である。

今年度は講義後毎回のミニレポート提出も Microsoft Forms を用いて収集していることから、期限を守り提出するなど社会人としての行動が必要でありその能力の確認ができています。また、履修者における合格者の出席数は高く 2020 年度経営情報論にて 14 回中 12.6 回と 2020 年度社会情報論にて 15 回中 14.1 回ととても高い状況である。このことから「責任のある行動」「全力を出す」などという項目を満たすと考えられる。

また、演習 4 年では卒業研究において自身でテーマ選定を行い、研究計画を立て、調査分析を行い、グループで卒業論文を完成させている。これまでの研究タイトルの一覧は、【添付資料(6)参照】のとおりである。卒業論文は研究室内で発表を行い全参加者での評価を行っている。卒業研究の取り組みにより「よく考え想像する」、「情報受信共有発信」、「全力を出す」を満たすと考えられる。

5. 今後の目標

5.1. 短期目標

自ら学び考える講義実現のために、授業評価アンケートの「授業外学習」の評価点を向上させる。

また、教育の理念におけるその評価が適切に行えるよう下記の項目に関する評価資料を準備できるよう体制を整える。

- コラボレーション関連企業等による学生の評価
- 卒業生の満足度調査
- 卒業後の利殖などの進路変化に対する調査
- 研究室 20 周年同窓会開催と演習評価の実施
- 研究室来訪者一覧の作成

5.2. 長期目標

今後の社会の変化や学生ニーズの多様化や企業での求められる人材の変化に対応すべく、教育の理念の検討を継続的に実施する。

また、学部学科のカリキュラムの変更に対応し、新たな専門科目を対応できるように準備する。

6. 添付資料・参考資料

- (1) オンラインシラバス
- (2) 経済学部マニュアル(2020)
- (3) 研究室 Web ページ
- (4) ゼミ説明会資料
- (5) Facebook グループ
- (6) 卒業論文タイトル一覧